



DTX
drums

MONITOR SPEAKER

MS40DR

Owner's Manual
Bedienungsanleitung
Mode d'emploi
使用说明书
取扱説明書



English

Deutsch

Français

中文

日本語

EN
DE
FR
ZH
JA

安全上のご注意




ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

警告

電源 / 電源コード



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

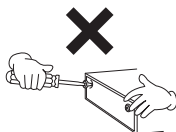
電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。

分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上にもうすぐなど火気のあるものを置かない。
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおい煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

注意

電源 / 電源コード



たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。

設置



不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしったりする原因になります。



本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。



この機器を電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



風通しの悪い狭いところに押し込めたりしない。
この機器を壁や他の機器から左右に 10cm、後ろに 10cm、上に 20cm以上離してください。機器内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。



指定のラックを使用する。また、付属のネジがある場合は必ずそれを使用する。
本体が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。

接続



すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。
感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。
聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



本体のすき間に手や指を入れない。
お客様がけがをするおそれがあります。



パネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。



本体の上ののりたり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様や他の方々がけがをしったりする原因になります。

● 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

注記(ご使用上の注意)

製品の故障や損傷、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱い/お手入れに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルが変色/変質する原因になります。
- 手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。
- 極端に湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく(結露する)ことがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。

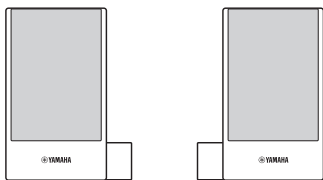
■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

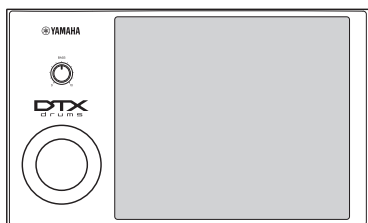
このたびはヤマハモニタースピーカー MS40DR をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。お使いになる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、安全に正しくお使いくださいますようお願い申し上げます。

同梱品 (お確かめください)

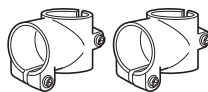
● サテライトスピーカー×2



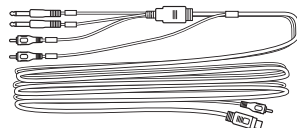
● サブウーファー×1



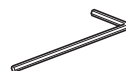
● パイプクランプ×2



● ケーブル (Mini DIN 8 ピン + RCA ピン - フォーン + RCA ピン) × 1



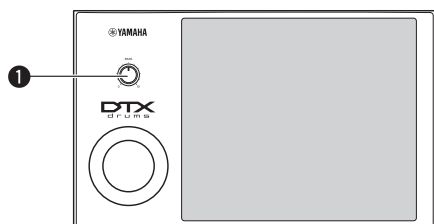
● 六角レンチ×1



● 取扱説明書 (本書)

各部の名称と機能

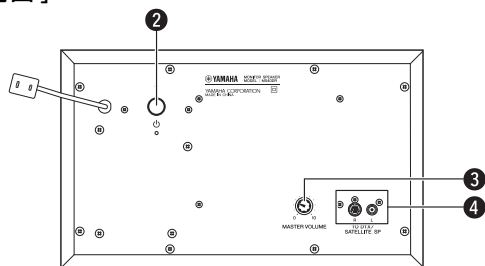
● サブウーファー [前面]



① BASS コントロール

サブウーファーの音量を調整します。時計方向に回すと音量が大きくなり、反対方向で小さくなります。通常は 12 時の位置にあわせると最適です。

[背面]



② 電源スイッチ

電源のオン (■) / オフ (□) スイッチです。

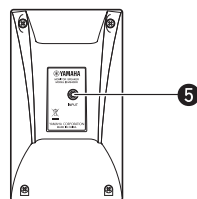
③ MASTER VOLUME (マスターボリューム)

全体の音量を調整します。時計方向に回すと音量が大きくなり、反対方向で小さくなります。

④ TO DTX / SATELLITE SP 端子

サブウーファーをサテライトスピーカーや音源モジュールと接続するための端子です。

● サテライトスピーカー [背面]

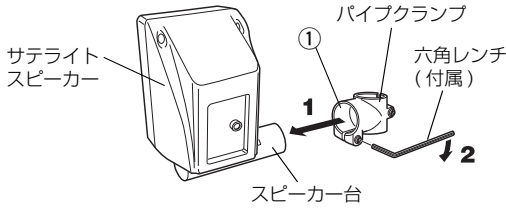


⑤ INPUT 端子

サテライトスピーカーをサブウーファーと接続するための端子です。

取り付け方法

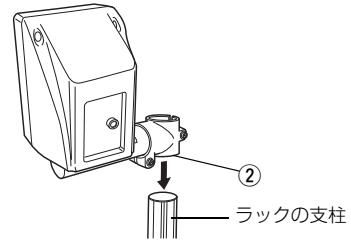
1. パイプクランプの穴①に、サテライトスピーカーのスピーカー台を差し込み、付属の六角レンチでねじを締めて固定します。



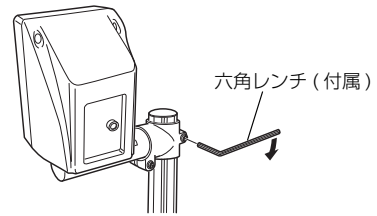
2. 図 A のように、パイプクランプの穴②にラックをゆっくりと通します。位置が決まったら図 B のように付属の六角レンチでねじを締めて固定します。

NOTE ・各ねじは強く締め付けてください。

【図 A】



【図 B】

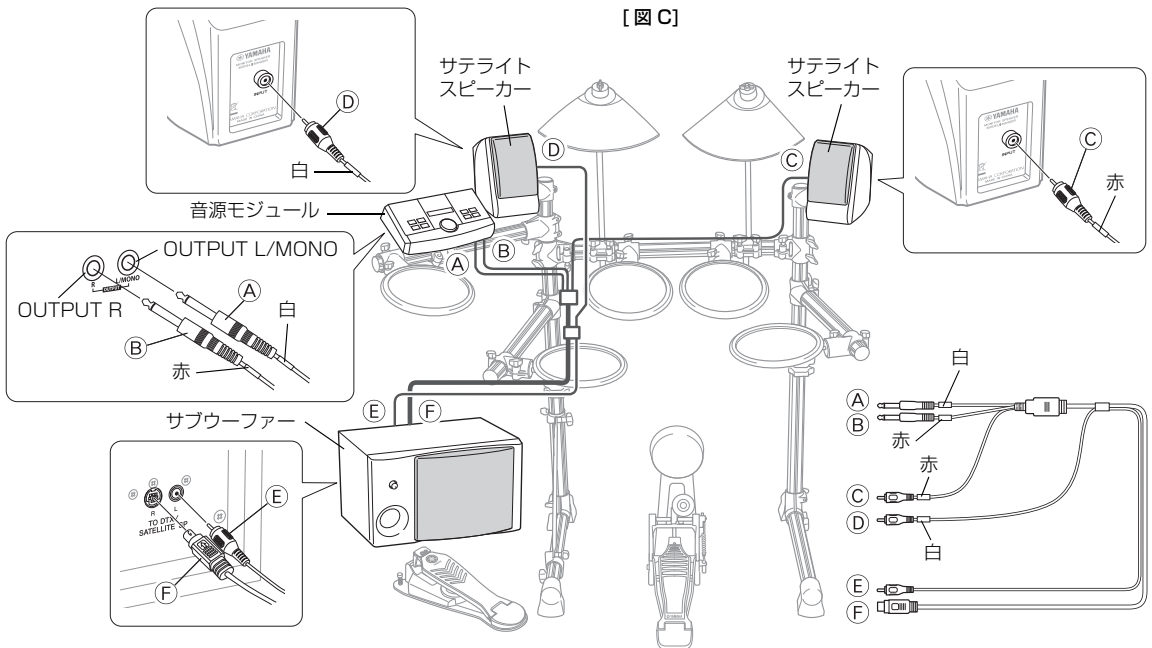


⚠ 注意

- ・サテライトスピーカーをラックに取り付けるときは、ゆっくりと行なってください。パイプクランプとラックの間に手をはさんでけがをするおそれがあります。

3. 図 C をご覧ください。サブウーファーを平らな床に置きます。

4. 図 C の標準的な接続例にしたがって、サテライトスピーカー、サブウーファー、音源モジュールを付属のケーブルで接続します。



* 赤はステレオミックス音声の右チャンネル、白は左チャンネルです。

5. 電源プラグを家庭用 (AC100V) コンセントに接続します。

⚠ 注意

- ・電源スイッチが切れている状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。

困ったときは

音が出ない。	電源プラグが差し込まれていますか？	電源プラグを、家庭用コンセント (AC100V) に確実に差し込んでください。
	電源スイッチが OFF になっていませんか？	電源スイッチを ON にしてください。
	ケーブルの接続は正しく行なわれていますか？	ケーブルが正しく接続されているか、付属以外のケーブルを使用していないか確認してください。
	ボリュームが下がっていませんか？	MASTER VOLUME で音量を上げてください。 BASS コントロールでウーファアの音量を上げてください。
	音源モジュールの音量が下がっていませんか？	音源モジュールの音量を上げてください。
音が歪む。	MASTER VOLUME が上がっていませんか？	MASTER VOLUME で音量を下げてください。
	BASS コントロールが上がっていませんか？	BASS コントロールでサブウーファアの音量を下げてください。
	音源モジュールのマスター EQ の低音域が上がっていませんか？	音源モジュールのマスター EQ 低音域を調整してください。設定の仕方はお手持ちの音源モジュールに付属の取扱説明書をご覧ください。
雑音が発生する。	ケーブルは正しく接続されていますか？	ケーブルが正しく接続されているか、確認してください。
電源をオン / オフするときに音が出る。	サブウーファアの電源を ON にする前に、音源モジュールの電源を入れていませんか。	まずサブウーファアの電源を ON にし、その後に音源モジュールの電源を入れてください。

仕様

出力	サテライトスピーカー	20W + 20W (1kHz、20W/4Ω)
	サブウーファア	40W
再生周波数帯域	サテライト / サブウーファア	32Hz ~ 20kHz
スピーカーユニット	サテライトスピーカー	ツイーター: 19mm バランスドームタイプ、防磁型 ミドルレンジ: 8cm コーンタイプ、防磁型
	サブウーファア	16cm コーンタイプ、防磁型
定格消費電力	65W	
定格電源電圧	AC100V、50/60Hz	
寸法 (幅 x 高さ x 奥行き)	サテライトスピーカー	97 x 159 x 178 mm
	サブウーファア	350 x 210 x 321 mm
質量	サテライトスピーカー	0.7kg x 2
	サブウーファア	7.4kg
付属品	パイプクランプ x 2、ケーブル (Mini DIN 8 ピン + RCA ピン - フォーン + RCA ピン) x 1、六角レンチ x 1、取扱説明書 (本書)	

* 仕様および外観は改良のため予告なく変更する場合があります。